

KOSHBA KOSH コシュバ・コシュ

恋はロープウェイに乗って

1993年ヴェネツィア国際映画祭銀獅子賞受賞

監督=バフティヤル・フドイナザーロフ 撮影=ゲオルギー・ザラーエフ

出演=パウリーナ・ガルヴェス/ダレル・マジダフ

1993年 タジキスタン カラー 90分 提供=パイオニアLDC 配給=ユーロスペース



KOSHBA KOSH
コシュバ・コシュ

恋はロープウェイに乗って

愛は時を選ばない

♥あの、見ているうちに、「あれは何?」「何を
しているの?」「なぜ?」——と、好奇心が刺
激されっぱなしでワクワクさせられた中央
アジアの国タジキスタンの映画、『少年、機
関車に乗る』の監督バフティヤル・フドイ
ナーロフが、内戦下の混乱と恐怖の中で
第2作『コシュバ・コシュ——恋はロープ
ウェイに乗って』を撮った。

♥画面の中にはときおり銃声が響きわたり、
戦闘がごく近くで行われている緊張がある
が、そこで繰り広げられるのは、内戦とい
う言葉から連想されるレジスタンス物など
ではなく、若々しいラヴ・ストーリーとい
うのが楽しい。

♥監督は言ったそうだが、「愛は時を選ばない」
なるほどね。そして、ヒロインの父親はバク
チで大敗するダメ男。タイトルの『コシュバ・コ
シュ』は、「勝負なし」「あいこ」の意味を持つ
タジク語の賭博用語だそうだけど、バクチ
の絡む男女の恋物語のタイトルが、「勝負な
し」だなんて、なかなか意味深長だし、お
かしもある。

♥さすがは、なぜ、なぜ、を続出させて観る
者の好奇心を煽りたて、そうすることによ
って、多くの疑問が山積みなのに答えの見
つからないタジキスタンという国の現状を
語ってしまったフドイナザーロフ、彼は内
戦などにはめげず、またしても自分流の映
画を作ってしまったのだ。

ロープウェイが見守る ラヴ・ストーリー

♥前作の『少年、機関車に乗る』は、モノ
クロームで田舎から都会へ父を訪ねる兄
弟の機関車での旅を描いたが、ここでは、モ
スクワから久しぶりにタジキスタンの首都
ドゥシャンベに帰ってきたら、父親のバク
チのかたにとられそうになってビックリの娘
と、彼女に夢中になった地元の若者の恋が
カラーでつづられている。

1993年ヴェネツィア国際映画祭銀獅子賞受賞

監督+編集=バフティヤル・フドイナザーロフ

脚本=バフティヤル・フドイナザーロフ+レオニード・マフカーモフ 撮影=ゲオルギー・ザラーエフ

音楽=アフマド・バカエフ 出演=パウリーナ・ガルヴェス/ダレル・マジダフ

1993年 タジキスタン カラー 90分 提供=パイオニアLDC 配給=ユーロスペース



渡辺祥子



♥そんなチグハグな男女の間に育つ恋を
楽しく見せて、グルグル目が廻りそうな愉快
なラスト。前作のときもそう思ったのだけ
れど、フドイナザーロフには、とても感じの
良いユーモア・センスがある。このユーモ
ア・センスは、疲れた心を元気にするのにき
きめがありそうだ。

ものがたり

♥内戦下のタジキスタン共和国の首都ド
ゥシャンベ。ほかにすることがないのか、男
たちが集まってギャンブルに興じている。そ
のなかに若いダレル(ダレル・マジダフ)の姿
もあった。

♥ドゥシャンベの上空を行き来するロープ
ウェイは、ビールをくすねたり、難民を運ん
だり、時には空中でのロマンチックなデート
の場所にもなる。ここがロープウェイの操
縦士ダレルの舞台だ。

♥ギャンブルで大負けした父親のもとに、
久しぶりにモスクワから美しい娘ミラ(パ
ウリーナ・ガルヴェス)がやってくる。娘ま
でも借金のかたにしてしまう父親。都会育
ちで、アジア的な家父長制度に反発するミ
ラは、ダレルにとって新鮮で魅力的だ。

♥内戦が激化し、砲撃の音が闇を切り裂
く。恋は時を選ばずに突然やってくる。ミ
ラに一目惚れしたダレルは、彼女を父親か
ら奪い去った!

♥のんびりと行きつ戻りつするロープ
ウェイのように、二人の恋物語が繰り広げ
られる。

♥突然、父親が心臓発作で他界し、モ
スクワに帰るミラの乗った車をダレルは必
死で追いかける。

♥バクチのかたなんて、と怒り狂う娘ミラ。
そんな気丈で鼻っばらの強い、しかも先進
西欧風の教育を受けた娘にぞっこん惚れ
込んだ地元保守的アジア圏の青年ダレル
には、彼女の怒りや戸惑いがわからない。
彼は男尊女卑の家父長社会で育ち、父親
にさからったりする娘なんか見たことも
ないのだから。

♥この一組の若い男女の関係を見つめな
がら、山あいの村と麓の町を結んでゆっ
たりと登り降りするロープウェイや、戦
乱を逃れてドゥシャンベに集まってきた
難民たちの生活をいきいきとらえてい
るカメラは、前作にも増して好奇心をか
きたたせる“物”や“事柄”をうつしだす。

心を元気にしてくれる映画

♥驚くほどいろいろなことに使われてい
ると見えて、実際にはあまり役に立って
いないようなロープウェイ——これは何
のために作られたものなの? 突然、坂を
下ってくる手製のゴーカート遊び、ある
ときはハリボテの馬の首にまたがって
悩めるダレルの前に降って湧いたよう
に現われ、またあるときは、こちらも
悩めるミラの歩道で上半身裸で踊る
おじいさん、あれは何者?

♥タジキスタンって、ほんとに不思議な
国。決して豊かではなさそうだけど、ど
こか余裕があつてのんびり。銃声は響
くし、夜空に爆撃の閃光が走っているの
に、誰もあまり気にしていないのにも
驚いてしまう。

♥すぐ近くで戦闘が行われているのに、
それはそれ、こちらはこちらの生活が
ある、と言わんばかりに進んでいく
ドラマ。タジキスタンの不思議に彩ら
れて浮かび上がる若いカップルの恋は
とても新鮮でチャーミングだ。ミラは、
自分の気持ちも、なぜ父のもとへ帰
ってきたかもよくわかっていなくてちょ
っとばかり混乱。ダレルのほうは、好
きな彼女をどこまでも追いかけてい
る。

今夏独占ロードショー!

特別鑑賞券1400円絶賛発売中!

(当日一般1700円/学生1400円/小人・シニア1000円)

●当劇場窓口および都内各プレイガイド、チケットぴあ、チケット・セゾンにてお求めください。

●「ユーロスペース」にて前売券をお買い求めの方に「特製カード」をプレゼント!

●レイトショーにてフドイナザーロフ監督の前作『少年、機関車に乗る』を上映!

●上映時間 [先着入場・入替制]

月→金	1:00	3:00	5:00	7:00
土日祝	12:00	2:00	4:00	6:00

ユーロスペース ☎03(3461)0211
渋谷駅東急プラザ口下車2分 東急観光うしろ